昭和58年度から3か年計画、総事業費約 160万円でスタートした、西船越地区手づくりむら整備事業。

これまで、地区の人たちの知恵と工夫を取り入れた、数々のユニークな事業が進められてきました。

そして、今年3月に予定した計画が終了し、事業推進で得た〝こころの交流〟を主役に、整備した施設を活用して「新しい村づくり」に向かって、第一歩を踏み出しました。

豊かで住みよい村づくりが着々と…

―西船越手づくりむら整備事業―

3年間のあゆみ

〔58年度〕●4月…西蒲原農業改良普及所から事業実施の指定 ●4月～6月…事業の説明会・検討会を開く ●7月…事業実施を決定。推進員(20人)の選出、地区の環境点検調査を開始（10月報告） ●9月…先進地視察＝黒埼町、潟東村（参加・20人） ●2月…各層の意見集約

〔59年度〕●4月…59年度活動計画の作成 ●6月…先進地視察＝大潟町、吉川町（参加・27人） ●2月…施設整備計画書作成

〔60年度〕●4月…60年度活動計画の作成 ●9月～3月…計画書に沿って共同作業で施設の整備を行う ●3月…事業計画完了、記念誌を発刊

西船越地区は、岩室駅から北西へ約三キロ、村道夏井高畑線が南北に走る、稲作を中心とした農業と酪農が盛んな地区です。現在、二十八世帯、百五十九人（四月一日）が、恵まれた自然環境の中で生活しています。

またここは、長い伝統に支えられた文化や地域の連帯感といったものを失わずに残してきたまとまりのある地区です。

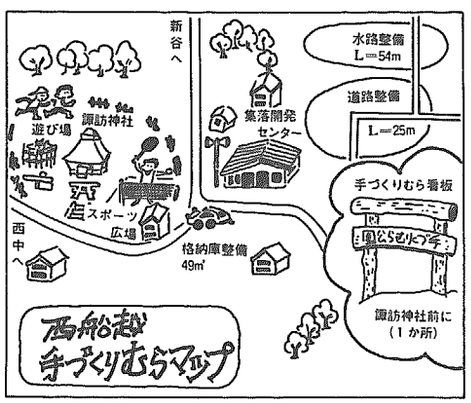
将来の農村地域のモデルに

この集落をモデル地区に、西蒲原農業改良普及所（県機関）、村、農協、地元が一体となって、昭和五十八年四月から「西船越手づくりむら整備事業（農山漁村生活環境整備特別指導事業）」に着手しました。

この事業は、将来とも純農村として残る地域の中にあって、集落の各組織活動を活発化し、計画的な生活環境整備を進めながら、併せて農業生産力の増大と活力ある未来の農村集落をつくることを目標にしています。

また、地区民が主体となって村づくり運動を展開し、自立性と連帯感を養い、豊かで住みよい地域づくりを進める――を基針にしています。

そして西船越地区が、将来の農村の生活環境面での〝モデル〟となるよう、地区民の総意で作成した「生活環境整備計画」に添って事業を進めてきました。



人と土地と自然を生かした村づくり

そして、人と土地と自然を最大限に生かし、地区の人たちの知恵と工夫と共同作業により、各種の手づくり施設（右イラスト参照）が作られました。

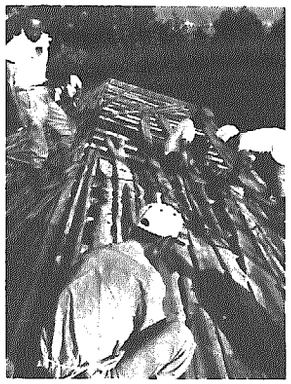
地区民の交流の場として、またスポーツ活動の拠点として大きな役割を果たしている〝手づくりむら公園〟（子供の遊び場、スポーツ広場＝ゲートボール場）。画期的ともいえる手づくり集落道の造成整備。祭り道具などを保管する格納庫の改築。さらに長さ五十四㍍の水路の整備――など、目を見はるばかりに変ぼうしました。そして、徐々にではありますが、この事業の成果が生まれています。

事業の成果が早くも

槙田　文雄さん
（63歳・老人クラブ）

この事業をやって本当によかったと思っています。

新しいゲートボール場ができたおかげで、以前に比べここでプレイをする人が増えてきたんです。特に、大会前などは潟上や西長島の人たちも練習に来ましてね、ここでみんなで汗を流しています。



大工に変身!? 一格納庫も地区全員の手で改築

地区全体が明るい雰囲気

小林　ヒナさん
（51歳・婦人会）

事業をリードしてくれた地区役員や推進員のみなさんに感謝しています。

特に若い人たちの力には感激しました。毎日の仕事の持ち味を生かしながらの、神社参道の整備やスポーツ広場の造成など、すばらしいの一言です。おかげで、子供たちを安心して遊びにやれますし、そのうえ、隣の地区の子供たちも遊びに来るようになりました。広場前を通ると、サッカーをやっている子供たちの歓声が聞こえ、地区全体が明るくなったようです。

記念誌の発刊も

このように西船越は、この事業の推進によって、徐々に従来の西船越から脱皮して、新しい村づくりが進んでいることが、うかがえます。

そして、この事業の取り組みを記念した冊子、「みんなで築く住みよい西船越」が地区民により計画、発刊され、事業推進で得たノウハウを生かした「新しい地域づくり」に向かって、第一歩を踏み出しました。

これを契機にさらにふれあいの輪を

小林　幸吉さん
（37歳・野球クラブ）

施設が完成し、一番喜んでいるのは子供たちかな。自分たちの遊び場を造ってもらったことはもちろん、その遊び場がお父さんやお母さん、おじいちゃんたちの手で造られた、ということでうれしそうですね。

また、事業推進を通じ、同じ地区にいながら以前はあいさつを交わす程度だけだった人たちとの交流もでき収穫でした。

これを契機に一段とふれあいの輪を深めたいと思います。

地区の発展は交流と創意工夫から

竹内平八郎さん
（55歳・西船越区長）

この事業計画の説明を聞いたときは本当に出来るのだろうか、と半信半疑でした。ですから、事業が始まっても地域ぐるみで積極的に取り組む姿勢が懸念されました。でも五十回を超える各層の話し合いや環境診断、先進地視察で、〝これは〟という感じが、地区全体に生まれたんですね。そして財政面についても「コシヒカリ一俵分ずつ寄付してくれ」という話しかけで、真剣な取り組みができるようになった感じがします。

今年の三月で、この事業が一応終わったわけですが、これまで整備してきた各施設を無にすることなく、いかに有効に使いこなすかがこれからの課題ですね。とにかく、この事業を通して得たものは施設の充実はもちろんですが、地区の人たちの心の交流――これが一番の収穫です。今後も地区全体でよく話し合いを進め、わたしたちの創意と工夫によって、さらに住みよい村づくりを行っていきます。

〝みんなで築く住みよい西船越〟記念誌を発刊

3年間の手づくりむら事業が完了した記念に、『みんなで築く住みよい西船越』という記念誌が作られました。これは次代に向かって、この地域づくりの輪をさらに広げようと企画したもので、地区全世帯から31人のみなさんが思い出や感想を寄せています。この記念誌はB5判24ページで地区全戸をはじめ、協力関係機関へ配付されました。